

## 「輝く 安井の子の育成」

「輝く安井の子」の育成を目指して、3年目を迎えました。子どもが「輝く」状態とは、自分に自信をもって、主体的に自分の力を發揮している状態と考えています。「輝く」経験を重ねた子どもは、自ら人生の課題を見つけ、主体的に課題を克服しようとして、よりよい未来を切り拓こうとする子どもも、すなわち変化する社会に逞しく対応していく「生きる力」をもっている子どもです。

輝く子どもの育成を目指したこれまでの2年間の子どもの様子を振り返りますと、学習の中で問題解決に向けて主体的に課題を解決しようとしている姿、友達と協力しながら共に高めあって学ぼうとする力が確実に育ってきています。今後さらに、主体的に学習を進める子どもを目指し、子どもが輝く瞬間を何度も積み重ねていけるよう、学校教育を推進します。

現在の社会では、急速なグローバル化やデジタル技術の飛躍的な進化等を背景に、社会は大きな変革期に直面しています。こうした中、持続可能でより良い世界を目指して国連で採択された国際目標（SDGs）の達成に向け、国や分野の垣根を越えて連携する取組が国際社会で広まりつつあります。とりわけ、「教育はSDGsの基礎」と言われ、「教育」の果たす役割に大きな期待が寄せられています。今までの学校教育活動を振り返り、様々な取組がSDGsの17の目標に繋がっているという意識を教職員も子どもも意識しながら取組を進めることが大切であると考えます。そして、より一層多様な他者と協働しながら、グローバルな視点に立って自分の周りや社会の課題を発見・解決し、新たな価値観を見いだせる人材の育成に視点を置いた学校教育が必要です。

今年度より本格実施される新学習指導要領では、このような世の中で、社会と繋がりながらよりよく生きていく「生きる力」を育む内容に大きく変更されました。この「生きる力」はこれまでの「生きる力」に加えて、変動する社会に対応するため、「答えのない課題に対し、多様な他者と協働する中で、新たな考え方を見いだしながら、自分なりの解決策を見いだし、実行していく力」です。そのために安井小学校の子どもたちに必要な「資質・能力」を「主体的に課題を見つけ、知識・技能を基に課題を解決していく力」とし、教育課程の中に位置づけ「何ができるようになるか」という明確なめあてを教職員一同で共有しながら学校教育を進めてまいります。

